
MIND GENERATION CONTACT IF

無山

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

「PDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MIND GENERATION CONTACT IF

【Zコード】

Z0403Z

【作者名】

無山

【あらすじ】

川神市　「ここに、様々な正義と悪の勢力が集い、壮絶なる奇妙な物語の幕が上がる」としていた……。

この小説は、完全に作者の自己満足できているカオスな内容のため、必ず「はじめに」を読んだ上で判断願います… m(—)m

「よーっとー やあみんな。俺はウルトラマンゼロ、ウルトラセブンの息子だ。

今回は、作者に代わってちょいと警告をさせてもらひやー。 本当は作者が直々にやろうとしたんだが、なんかやたらウザくなりそうだったんで俺に任せたんだ……やれやれだぜ。 おっと、このセリフは承太郎が言つべき台詞だったかな（笑）

で、その警告とは以下の通りだ。

1・この小説は作者が『息抜き』で書く『100%自己満足』の力オスなクロスオーバー小説である。

2・『キャラ崩壊』や『オリジナル設定』も有り。

3・ストーリー性があつたりなかつたりもする。

4・そのため一気に『手抜き』になつたりグダグダだつたりもある。

・とまあこんな感じか？
ちなみにこの小説のタイトルだが……

MIND GENERATION CONTACT IF

和訳：マイインデジHネレーションコンタクトイフ

ジマインド
エネレーション

コントラクト イフ

……と、こんな感じで完全にふざけてるな……。

まあそんな訳で、よっぽど腰じやない限りは読まないよ!ひと、もし読んで不満があつても怒りなによい!とじが、作者からのお願いだぜ。

これを踏まえた上で、読んでくれる場合は覚悟して楽しんでくれよな!

それじゃあ、そろそろHネルギーも残り少なくなってきたし、またな!」

はじめに（後書き）

ついにやってしまった……。

ゼロに代弁させた通り、そういうものになるのでそれぞれの原作を大事にしたい方は読まないことをお勧めします。..

そんなものなら投稿するなって声もあつたのですが、まあ問題があればすぐ消しますので^ ^ ;

プロローグ

ここは日本神奈川県川神市。

ここ多馬川の川原に、ただひたすらに正拳突きを繰り返す人物がいた。

体には特殊な装甲【テクター・ギア】を着け、右の拳と左の拳を交互に前へ繰り出していた。

単純な動作ではあるが、テクター・ギアを身に着けたままでは普通に動くことすら難しく、常人ではテクター・ギアを着けただけで圧死してしまうほどの重量があるのだ。

さらにテクター・ギアは、関節部にわざと負担がかかる仕組みになつてある特訓用のギプスのようなものもあり、彼はこれを装着した状態で何度も正拳突きを繰り返していたのだ。

しかし何度も繰り返すうちに、さすがに体力が続かなくなつてきたのか、だんだん拳を繰り出す動きが鈍くなつてきていた。

「おーい、ゼロー！」

丁度良いタイミングで聞こえてきた声に、ゼロと呼ばれた彼ウルトラマンゼロは動きを止め、声のした方を向いた。

そこには、真っ赤なボディで、燃える炎を象つた頭部の超人が、土手の上からゼロに向けて手を振つていた。

彼の名はグレンファイヤー。ゼロと拳で語り合い絆を深めた仲間だ。

グレンファイヤーは右手をゼロに向けて振り、左手にはコンビーノの買い物袋を持っている。

ゼロが自分の存在に気付いたと察すると、すぐに駆け足で土手を駆け下りて來た。

「よつ、頑張つてゐなあ。そんな動き‘ひらいもんまで着けて」

「うう言つて「コンビニ」の袋を差し出すグレン。中には栄養ドリンクの箱が入つてゐる。

「まあな、とりあえず今口はまだ千五百十一億九千万五千九百八十八回までだ。田標の一兆回にはまだ遠いな……」

買い物袋を受け取つてゼロが言つた。

それを聞いたグレンは驚いて、

「1512900005988回へ！？ すゞこキリの悪い数字だな、読むの大変じやないか？」

「だから俺が漢数字で、お前が算用数字で表記したんだろ？」

「そつか～…………て、俺ら一體何言つてんだ？」

「そ、そあなー。」

氣を取り直して、ゼロは、テクターギアを着けた状態で栄養ドリンクの蓋を開け、一気に飲み干した。

「ふは～っと！ いやあ、いつも悪いなグレン」

「いいつもんよ。ビーフせ暇だしな」

「おじおこ、そんな」と言つていいのか？ 今度のテストで赤点取つても知らねえぞ？」

「ウ……セ、そつだよな、やつぱ勉強もしどかねえとなあ……」

グレンはふいに遠くを見た。

今後の事を考へているのか、それとも何も考へていないのか、よくわからないが、今のゼロには正直どうでもよかつた。

自分の今の目標を達成するために、他人の事を考へている余裕はないからだ。

「さてと、じやあ続けるかな……」

再び正拳突きの構えをとるゼロに、グレンも正氣も戻り、

「お前もよくやるよな～、せうしてせこまでもやる奴になれるんだか

「せいやあもひりと、“あいつ”に勝つためさ」

「なるほどな。俺はもひつ絶対に勝てないと諦めてるが……」

「グレン、そいつの思考はよくなこぞ。何事もやればできると思わなことなー。」

「せう言われてもな……あの強さは正直戦う氣力が失せるぜ……」

グレンは溜め息をつくと、ひたすら正拳突きを繰り返すゼロの隣に腰をおろした。

太陽はまだ、昇りはじめたばかりであった。

ゼロが言つ“あいつ”とは誰か？

それは、数日前にさかのぼる……。

プロローグ（後書き）

最初に言つておく一

これだけで期待しなこよつこ…（^—^・・）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0403z/>

MIND GENERATION CONTACT IF

2011年12月1日17時54分発行